

## 2014 年度 入学 試験 問題

# 国 語

(試験時間 15:00~16:00 60分)

1. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
2. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
3. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
4. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
5. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

一次の文章を読んで、後の間に答えなさい。(50点)

限定的利他性とは、利他性が皆無ということではなく、限られた程度しか期待できないということである。この条件によれば、正義によって行動を規律することが意味をもつ主体は、際限なく他者を犠牲にして自己利益を増進しようとする無限の利己性はないが、自己を際限なく犠牲にして他者に尽すような無限の利他性もたない、すなわち、悪魔でもなければ天使でもなく、その中間の存在である。誰もが「悪魔」なら、正義の義務を課すことは不可能であり、誰もが「天使」なら、正義の義務を課す必要がない。

「天使」たちの社会に正義の義務を課す必要がないのは、愛による相互的献身が支配するからであることは理解しやすいであろう。「悪魔」たちの社会に正義の義務を課すことが不可能なのはなぜか。他者利益を自己利益と同様に配慮することが、長期的には自己利益の最大化にも資するという「啓発された私利」に基づいて、利己主義者たちも正義の義務を打算的に受容することは可能なのではないか、と思われるかもしれない。しかし、これは不可能である。完全な利己主義者たちには「啓発された私利」をもたらず手段としての相互協力ができないからである。相手に協力させながら自分が裏切る場合の方が、相互協力の場合より自己の利得が高く、(1)、結局、自己利益最大化のみを求める主体は裏切らざるをえず、相互協力がもたらすはずの啓発された私利を放棄した事態に帰着するからである。ゲーム理論で言うところの「囚人のディレンマ」である。反復ゲームでは、最初は協力し、相手が裏切ったら自分も裏切るという「しつぺ返し」<sup>(2)</sup>戦略で相互協力がキンコウ点になりうるが、裏切った相手と同じゲームを反復する必要がなく「食い逃げ」ができる状況では、このキンコウは成立しない。

国家権力を樹立すれば、裏切り戦略をとった主体に対して強制的に制裁を科して利得構造を変えてしまうことにより、囚人のディレンマを解決できるというホッブズ以来の想定があるが、これは解決になってはいない。完全な利己主義者たちのみから成る社会では、国家の強制装置の管理者たちが、自己利益のため人々をサクシユ<sup>(3)</sup>する手段として、この強制装置を使用する可能性は排除できず、また人々に管理者の善意を信じることを期待できない以上、人々は制裁の回避以外に服従動機をもたない。しか

し、制裁を加える権力の実効性は裸の暴力だけでは安定的に維持できず、社会の相当部分が自発的に服従することを前提しているから、この状況では、制裁の蓋然性自体が低下する。比喩的に言えば、社会契約は無効化し自然状態に復帰せざるをえない。

したがって、正義理念による義務付けが可能であるためには、完全な利他性には達しなくとも、他者との協力を可能にする程度には自己の利己性を自制しうるような限定的利他性を、社会の少なくとも多数部分が有していることが必要である。この限定的利他性とは、もう少し精確に言えば、他者が不正な利得を求めて裏切る場合でも、自らは裏切らず正義のルールを遵守するというほどお人好しではないが、他者が正義に適った社会秩序の維持に協力する保証がある場合には、自らもそのような協力をするといい条件付きの自発的協力姿勢である。国家の強制装置の管理運営者も含めて社会の成員の大部分がこのような限定的利他性を持ち、またそのことが共通知識として社会に広まっている場合にのみ、裏切り戦略を選択する逸脱者に対して強制的制裁を科す国家の設立により、自然状態における囚人のディレンマを解決することが可能になる。

国内的文脈においては、この限定的利他性の条件は通常満たされている、あるいは、そう信じられている。もちろん、国内的文脈においてもこの条件の成立を疑う立場もありうるが、社会的協力が常にはなくとも概して成立しているという経験的事実によって反駁されるだろう。いずれにせよ、ここでは、その検討には立ち入らない。ここでは、この条件は国内的文脈において成立するとしても、グローバルな場では成立しないとして、世界正義の意義を否定する批判を問題にしたい。

この批判の前提をなすのは、国内的正義の規律対象たる個人は限定的利他性をもつとしても、世界正義の中心的な規律対象・実現主体たる国家にそれを期待することはできないという、主体の非対称性の主張である。この立場によれば、国家は自然人たる個人とは異なり、専らその国民の利益保護のために創出された人為的な装置であり、自国民利益最大化がその存在理由をなす他国民の利益のために自国民利益を犠牲にするのは、国家が国民の信託を裏切るものであり、許されない。

(4) これは国益優位論であるが、人民利益を犠牲にして支配層の利益を国益の名で追求する権威主義体制と結合した国家至上主義と等置するのは誤りである。諸個人が自己の自由・所有・安全等の権利の保護のために結合して国家を設立したとする近代社会契約説も、各国家は何よりもまず当該国家を設立する社会契約参加者とその継承者たる自国民に対して保護責任を負い、他の国

家を設立する社会契約に参加した他国民に対しては保護責任を負わないという含意をもちうる。民主主義の視点からも、各国政府は自らが政治的に代表する自国民の利益を最優先する責任を自国民に対して負うという主張が唱えられうる。したがって権威主義に対する批判をもって、国益優位論を斥けることはできない。国益優先は支配集団の利己心に由来するのではなく、国家の自国民に対する政治道徳的責務（国民の権利ないし利益の保護責任）に基づく。

国益優先原理を支配集団に属する諸個人の利己心に還元するならば、限定的利他性の条件の成否に関する個人と国家の非対称性というこの立場の前提が崩れるから、このような還元をこの立場は否定せざるをえない。個人の利己性が主体の自然的性向として想定されるのに対し、国家の国益優先性が国家の政治道徳的責務として想定されるといふ非対称性のゆえに、(5) といふこの立場の主張が成り立つのである。リアリズムの国益優位論は国家の国益優先性をア・プリオリな公理として措定しているが、このような公理化を、人間の利己性に関する純経験的主張として正当化することは論理的に不可能である。リアリズムの国益優位論は一見、没規範的な主張に見えるが、国家の国益優先性をア・プリオリな公理として措定する限り、その立場は人間性向に関する事実的根拠に依存した主張ではありえず、国家の自国民に対する政治道徳的責務という規範的根拠に暗黙裡あんもくりに依拠した主張と解釈すべきである。

しかし、まさに、国益優先性の根拠が国家の政治道徳的責務であることが、国益優先性の規範的限界をも含意する。国家は保護責任を自国民に対してのみ負い、他国民に対しては負わないという「保護責任の境界」が仮に認められるとしても、それが何らかの政治道徳的根拠によって正当化される限り、同じ原理に基づいて他の国家がその国民を保護する責任を負うことを国家は承認しなければならぬ。これを否定するならば、国家が自国民を保護する責任をもつという主張自体が破綻する。

このような自国民保護責任優先の政治道徳的正当化理論の例として、先に近代社会契約説に触れたが、各国家に自国民保護責任が課されるだけでなく、他国民を保護する責任を他国政府が<sup>(6)</sup>リコウするのを尊重するという規範的制約が課されることは、この立場においては特に明らかである。近代社会契約説が、歴史的に実在しない社会契約を理論的カコウとして想定しえたのは、自然状態において陥る自然権相互侵犯のディレンマを国家が実効的に解決しうることを人々が理解するならば、そのような社会

契約に参加することが合理的であることも人々は理解できると考えたからであり、それは自然権原理を前提している。各国政府が保護しようとする国民の権利が前国家的に万人に賦与された自然権である以上、各国政府は自国民だけでなく他国民もまた同じ自然権をもつことを承認せざるをえない。近代社会契約は各国政府に自国民を保護する特別の責任を負わせるとしても、他国民の自然権を侵犯してでも、あるいは他国政府がその国民の自然権を保護する責任を果たすことを妨害してでも、自国の利益最大化を図ることまで各国政府に授權することは、この立場の規範的前提たる自然権原理に矛盾するがゆえに、規範論理的に不可能である。

近代社会契約説は主権国家設立を正当化することにより、万人の万人に対する闘争状態としての自然状態を国内においては克服したが、国家間関係にかかる自然状態を残存ないし移行させたとしば言われる。しかし、個人間の闘争よりも国家間の闘争の方がはるかに破壊的で、はるかに巨大な自然権侵害帰結をもつ以上、<sup>(8)</sup>もし、近代社会契約説がこのような含意をもつとしたら、それは機能的にも規範論理的にも自壊的であることになる。近代社会契約説が機能的・規範的な整合性を保持しようとするなら、それが各国政府に帰する自国民保護責任は、他国民の自然権、およびそれに対する他国政府の保護責任と両立するという規範的制約を内包したものでなければならぬ。

民主主義からの自国民保護優先論は自然権原理に必ずしもコミットする必要はない。民主的な集合的自己決定を制約する自然権の存在を否定する立場もありうる。しかし、このような立場も、民主的自己統治の原理の基底的重要性を承認する以上、他国民の民主的自己統治の尊重には規範的にコミットせざるをえず、自衛目的を超えた国益追求のための他国への侵略・干渉の禁止や、他国の専制的政府に対する支援の禁止、他国における民主的自己統治の確立・安定化に必要な社会経済的インフラ整備への国際的支援の応分の負担など、一定の対外的責務のスイコウ<sup>(9)</sup>が、自国民保護責任の根拠となる同じ原理によって要請されるがゆえに、自国民保護責任スイコウの制約条件になることを承認する必要がある。

(井上達夫『世界正義論』による)

注 ア・プリアリ……経験に基づかない、経験に論理的に先立つ認識や概念。

〔問一〕 空欄(1)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A また、相手に協力させられない場合には、自分も協力しない方が裏切るよりも自己の利得が高い場合には
- B かつ、相手に裏切られた場合には、自分も裏切った方がそうしない場合より自己の利得が高い場合には
- C または、自分が裏切る場合には、相手に裏切られない方が裏切られるよりも自己の利得が高い場合には
- D あるいは、相手が協力しない場合には、相手に裏切られないように協力する方が自己の利得が高い場合には
- E しかも、相手が協力するのかどうか予想できない場合には、自分が裏切らない方が自己の利得が高い場合には

〔問二〕 傍線(2)(3)(6)(7)(9)のカタカナを漢字に改めなさい。(楷書で正確に書くこと)

〔問三〕 傍線(4)「これは国益優位論であるが、人民利益を犠牲にして支配層の利益を国益の名で追求する権威主義体制と結合した国家至上主義と等置するのは誤りである」とあるが、その理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 権威主義的体制と結合した国家至上主義とは、近代社会契約説とは関係なく国家の利益を追求することができるのは支配層であるとして、国益を追求するものであるため。

B 国益優位論とは人民の利益を中心にして考え、支配層には犠牲を強いるものであるので、支配層の利益を中心に考える権威主義的体制と結合した国家至上主義とは異なるため。

C 国益優位論は、支配層と人民といった区別をすることなく国民すべての利益を増大することを指すのに対して、権威主義的体制と結合した国家至上主義は区別した上でそれぞれの利益を追求するため。

D 国家至上主義は反民主主義的な権威主義に陥りやすいのに対して、国益優位論はあくまで民主主義の基盤の上で、国民の利益を追求するものであるため。

E 国益優位論は、特定階層の利益追求のために唱えられるものではなく、あくまで国民の利益を追求するためのものであり、支配階層の利益のみを追求する権威主義的体制と結合した国家至上主義とは異なるため。

〔問四〕 空欄(5)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 前者が肯定されても後者は否定される

B 前者が否定されると後者も否定される

C 前者が肯定されると後者も肯定される

D 前者が否定されても後者は否定されない

E 前者が肯定されると後者は否定されない

〔問五〕

傍線(8)「もし、近代社会契約説がこのような含意をもつとしたら、それは機能的にも規範論理的にも自壊的であることになる」とあるが、その理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 自国の利益のみを追求して他国の利益を考えないと他国も同様の行動をとるようになり、また国民に対する国家の責任を正当化する根拠も失うので。

B 自国の利益追求を他国の犠牲のもとで追求すると多くの国々と敵対的關係になるため、国際社会において同盟国を失ってしまうようになるので。

C 自国の利益追求が自国民の権利を保護するためではないため、国家の行為を正当化することができなくなり、自国民に離反の機会を与えてしまうので。

D 自国の利益だけを追求していても他国民の利益と一致する場合があります、結果的にむしろ他国を利することになってしまい、他国を批判する根拠を失ってしまうので。

E 自国の利益であることを隠して利益追求を行うことで、他国民のみならず自国民にも政府に対する不信任感が生まれてしまい、統治の正当性が失われてしまうので。

〔問六〕

本文の趣旨に従うと、筆者は国家と限定的利他性との關係をどのように考えているのか、「個人」、「他国」という言葉を入れて六〇字以内で書きなさい。(句読点は一字に数える)



〔問七〕 次の文アイオについて、本文の趣旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

ア 社会には、他者を利用し尽くす「悪魔」と自己を犠牲にする「天使」のような人間はいても、中間の存在である人間が大多数であるので、正義を論じる意味がある。

イ 安定した社会では、自発的な服従を大多数の人々が行うようになるため、不安定な社会では必要だった国家による制裁はほとんど必要なくなってしまう。

ウ リアリズムの国益優位論は、国家の現実から出発する考えであるので、個人の利己心のみに基づいた国家の運営は維持できず、国益を損なってしまうという立場である。

エ 社会契約は歴史的事実ではないが、国家が国民相互の対立を調整できるといふ社会契約説は、国家に対する国民の理解を得やすくする上で役立つ。

オ 前国家的にすべての人に与えられた権利が民主的な集会的自己統治を制約する、という考えを否定する立場の人も、侵略や干渉の禁止は自然権であると認めざるを得ない。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(20点)

日本固有文化は、南中国、江南地域、インドネシア方面から渡来したいくつかの農耕民文化の分厚い地盤の上に、支配者文化が被覆してできあがった混合文化であるといつてよい。

もともと農耕民は定着的で生産的で受容性にも富んでいるために、外来文化を受容し蓄積する性格がいちじるしく、したがって農耕民社会の蔵する文化目録は、移動的・戦闘的な騎馬遊牧民社会のそれに比して格段に豊富である。農耕民社会は定着的で自己の耕作地に拘束され、その耕作地の広さにも限度があるため、その生活圏が狭小なのが普通である。農耕民文化には、外来文化の受容・蓄積のためもあって、異系・異質の文化や文化要素が併存し同居している混合的性格が顕著で、相互に対立し矛盾する文化が併存・同居しているにもかかわらず、統一ある共同体文化を形成している。栽培植物が、農耕民の最大関心事であり、植物的世界に生活しているのだから、植物の萌芽、開花、結実、枯死という生命の循環を反映した世界観や循環的論理、あるいは陰陽二元的論理が特徴的である。ものの考えかたは混合文化のゆえもあって、おのずから

(1) 「論理的」ではなく、

(2) で「理解的」な傾向をもっている。

こうした農耕民文化に対して遊牧民文化はきわめて対照的である。この社会は牧草を追って絶えず移動する移動社会で、定着的な地縁的組織は発達しない。かれらを結合するものは基本的には血縁と系譜である。この社会は移動社会であるために、いきおい軍隊的性格と組織をもつようになり、きわめて行動的で侵略的で、政治力と組織力にすぐれている。また移動的であるために、文化は蓄積されない。その文化目録は武器、馬具を除き極度に貧弱である。遊牧民は行動的ではあるが生産的ではない。牧畜経済は家畜が「資本」で、富の増大は家畜の数の増大を意味し、その増大は家畜の自然的繁殖にまつのであるが、これは資本と利潤の関係に似ている。家畜資本は数量的に取り扱うことができるし、牧民はただ家畜を管理し、<sup>(3)</sup> 適当な牧草地を発見し、畜群を外敵や疫病から保護することがその仕事で、あたかも資本主義経済の経営者に似た立場にあって、農民の生産経済形態とは根本的に異なっている。農耕民の循環論理的、二元論理的なのに対し、直線論理的で、一元論理的であり、前者の宗教が靈魂崇

拝的、アニミスティックで、「水平的」信仰形態であるのに対し、これにおいては、主神的信仰、天神信仰が顕著で、「垂直的」信仰形態を特徴としている。両者の文化の対照的性格への理解は、日本固有文化の性格を考えるうえに少なからぬ意味をもつであらう。

渡来した征服民は政治力と組織力にすぐれてはいたが、文化的には貧しかった。これに反し、被征服民たる農耕民は文化的には豊かで、生産的ではあったが、政治力も組織的行動力も乏しかった。だから征服民は政治的・軍事的には勝ったが、文化的にはむしろ被征服民の文化に吸収されたといつてよいだろう。農耕民や漁撈民<sup>うらう</sup>だけで大規模な国家広域社会はできないし、また遊牧民だけで永続的な国家をつくりえない。

(5)

日本文化の雑多で、多様で、矛盾的な性格は、こうした農耕文化の一般的性格や、さらにその農耕文化そのものが、すでにいくつもの農耕文化の混合から成立しているということや、騎馬遊牧民文化の性格をもった支配者文化と先住農耕民文化との混合、というよりもむしろ支配者文化は農耕民文化によつて深く影響されたというこれらの事実から理解し説明することが、少なくとも一つの途<sup>みち</sup>であらう。

(岡正雄「日本文化の基礎構造」による)

〔問一〕 空欄(1)(2)に入れるのにもっとも適当なものをそれぞれ左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 功利的      B 創造的      C 分析的      D 行動的      E 包摂的

〔問二〕 傍線(3)「農民の生産経済形態とは根本的に異なっている」とあるが、その理由としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 農民は限定された耕作地で植物を栽培するのに対して、牧民は多くの家畜を移動させるので広い牧草地を必要とする。
- B 農民は小規模の家族単位で耕作を行わねばならないのに対して、牧畜は部族単位など大人数で行わなければならない。
- C 農業では毎年の生産を同じ田畑で行い維持管理が重要なものに対して、移動する牧畜では牧草地の管理は考慮されない。
- D 農民は労働だけでなく自分で管理も行うので経営者であるが、牧畜では家畜の所有者と世話をする人が分離している。
- E 農業は栽培のすべての局面で手をかけ生産するが、家畜が繁殖する牧畜では遊牧民は農民のような生産者ではない。

〔問三〕 傍線(4)「垂直的」信仰形態」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 祖先の霊が崇拝すべき存在とされ、時代的にもっともさかのぼったところに先祖としての神があるとする信仰。
- B もっとも高位にあるのは天の神だが、人間を直接支配するのは天神に従う神々であるとする信仰。
- C 神は天上にあり、その神が人間を支配しているとして、人々が直接に神に従おうとする信仰。
- D 人間の信仰は天上や山上にある神と直接に向き合うものであり、現世的な人間関係を無視しようとする信仰。
- E 自然界において高いところが貴いとして、天と地を対比的に見て、農耕など地の作業を低く見ようとする信仰。

〔問四〕 空欄(5)に入れるのにもっとも適当なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

A 定着的な農耕社会の地盤の上に政治的にすぐれた種族が被覆し、これを組織して、はじめて永続的な国家が成立する  
場合が多い。

B 遊牧民が農耕民の文化に吸収されることにより、戦闘性と侵略性を失った新たな文化が生まれ、国家を形成する地盤  
ができる。

C 政治力や組織力に優れた遊牧民に対して、被支配者としての農耕民が文化的に対抗して勝利を収めたことで国家的統  
合が成立する。

D 戦闘能力に欠ける農耕民を遊牧民が支配することにより、農耕民が戦士として訓練され、他国の侵略にも耐えること  
のできる国家が成立する。

E 国家を永続的に成り立たせる文化を支配者の遊牧民が農耕民に学び、定着して農耕民の性格に変容することで、安定  
的な国家が形成される。

〔問五〕 次の文ア～オについて、本文の趣旨と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答え  
なさい。

ア 農耕民は定住して一定の耕地を相手にするため、農耕に役立つ文化と役立つ文化とを区別して受容する。

イ 農耕民は栽培植物の循環を反映した豊かな文化をもつが、絶えず移動する遊牧民社会は文化的に貧困である。

ウ 日本文化の特徴は、各地から渡来した農耕文化と支配者文化がそれぞれの独自性を維持しているところにある。

エ 移動社会である遊牧民は軍隊的・戦闘的であり、文化に対しては敵対する姿勢をもち、各地の土着文化を破壊した。

オ 日本文化の特徴である多様性は、農耕文化と騎馬遊牧民文化というそれぞれ単一な二文化によって作られている。

三 次の文章を読んで、後の間に答えなさい。(30点)

とし月の移りゆくままに、ありしことも思ひ出づれば、うれしき、悲しき、さまざまのふし多かれど、さしあたりたるそのきは、かりには覚えぬこそいといふかひなきわざなりけれ。こたびはたいみじう悲しきことどもとり集め、見つくしたれど、幼きものの物の心知るやうになりなんころは、物忘れがちに、<sup>(1)</sup>あとはかなき心にては、<sup>(2)</sup>ついでのままに語り聞かすべきことどもおぼつかなう、かつは、かげろふの夕べを待たぬ世のならひにて、<sup>(3)</sup>もしそのほどを待ちつけざらましかば、いかなりしことだに知らざらんが、罪深かりぬべければ、ことのはの続きも知らずながら、思ひ出づるままに記しおくなりけり。

年ごろ頼みし人の、こそなきさらきはじめつかたより、いささか心地悩ましうて、世の常のしはぶきのやうにはあらざりけれど、かぎりの旅とやは思ひかけたりし。そのほどのこと書き続けむは、いと胸いたう、しのびがたければ、詳しくやえ記さでなん。まいて今はと見果てつるほどの心地、何にかはたぐふべき。同じ道にと思ひ嘆けど、心になふわぎにしもあらねば、やうやうをさめなむとするに、髪ばかりをそぎて添へ聞こゆるも、いとあかずあさましうて、

黒髪にうき身をかふるものならば後の世までもおくれざらまし

神仏にも今ひとたびおこたらせたまへと祈りたてまつりしも、そのかひなくなりぬれど、さりとも後の世は捨てさせたまはじと、なほ頼みたてまつりて、

<sup>(4)</sup>限りある命を今はいかにせんみちびきたまへ後の世のやみ

心の闇にくれまどひて夜昼のさかひも知らねど、一七日ばかりにもなりぬるに、かういと寂しきところに、女ばかりはいかではかたへてあらん、ながめなどふるをりは鴨川の水あふれ出でていとあやふかなるにとて、錦小路のみ館に移るべきよしのたまはせたり。いと忝きものから、年頃ともに起き伏しなれて、名残多かる心地するを、せめて後のわぎをだにここにてせまほしう思ひつつも、泣く泣く物などとりたたむるも、手より落つるやうなり。常によりぬし真木の柱の、いづこよりもうちまもられて、<sup>(5)</sup>むらさきの物がたりなるとはやうかはりたれど、

いつかまた袖うちふれんおもかげのたちもはなれぬ真木の柱に

今はとて立ち出づるにもいとみじう、粟田山あはたは昔の宿近かりしところとて、朝夕ながめられつるを、今はよそにだに見ざらむがあはれに心細かりぬべきなど思ふに、いとどかへり見のみせられて、

うき雲の粟田の山をよそにみてただよひゆかん果てをこそ思へ

ここもいとせまうはあらず、人近く頼もしげなるにつけても、あはれありし世ながら移り来て住みたらましかばと、いとどかきくらされていみじきに、夜中ばかりにやあらん、ほととぎすのほのかに鳴きたるを、

いちなかに出でてなくなるほととぎすおなじたぐひもある世なりけり

おのれも春の末つかたよりをり心地の悩ましう覚えけるを、心のいとまなきほどなれば、ものとも思はで過ぐしつるを、月日重なるままに、腹のややふくらかになりぬ。人はみなかかるをりにしもあやにくになど、いとほしげに言ひあつかへど、心一つには、せめてうれしきことにもあるかな、忘れ形見にひとりばかりを見あつかはむがいとさうさうしかるべきに、こたびはをのこななどにもあらば、こよなうかなしさもなぐさみぬべくなど、心ほそき中にもこのことをのみ頼みに明かし暮らすほど、いつしか夏も過ぎぬ。

(税所敦子『心つくし』による)

注 鴨川……京都を流れる川。 錦小路のみ館……京都市中錦小路にある薩摩藩の屋敷。

粟田山……京都東山三十六峰のひとつ。

〔問一〕 傍線(1)「あとはかなき心」・(2)「ついでのままに」・(7)「いとほしげに」の意味としてもっとも適當なるものをそれぞれA

〔Dの中から選び、符号で答えなさい。〕

(1) 「あとはかなき心」

- |   |              |
|---|--------------|
| A | 後ろ盾のない不安な気持ち |
| B | 精根尽き果てすぎんだ神経 |
| C | 心細く頼りない記憶力   |
| D | わずかの余命に焦る思い  |

(2) 「ついでのままに」

- |   |          |
|---|----------|
| A | たまたまの機会に |
| B | さりげなく    |
| C | 折に触れて    |
| D | 順序だてて    |

(7) 「いとほしげに」

- |   |          |
|---|----------|
| A | うらやましそうに |
| B | 気の毒そうに   |
| C | 愛情をこめて   |
| D | かわいらしく   |



〔問二〕傍線(3)「そのほど」とは何を指しているか。もつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A さまざまのふし
- B さしあたりたるそのきは
- C 物の心知るやうになりなんころ
- D 語り聞かすべきこと
- E かげろふの夕べ

〔問三〕傍線(4)「限りある命を今はいかにせんみちびきたまへ後の世のやみ」の歌についての説明としてもつとも適當なものを

左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 夫に死後の安樂を与えてくれるなら、自分に残された命と引き換えでもかまわないと仏に取引を求めている歌である。
- B 夫の死を不本意ながら受け入れつつも、せめて夫を成仏させてくれるようにとひたすら仏に祈念している歌である。
- C 必死の願いを受け入れてくれなかったことを恨みなじる調子で、強く夫の極樂往生を神仏に迫っている歌である。
- D 意のままに生を終えることができないう自分を早く夫のいる世界へ導いてほしいと神仏に祈誓している歌である。
- E 夫を亡くして生きる希望を失っている自分に、せめて生きる光明を与えてほしいと救いを求めている歌である。

## 〔問四〕

傍線(5)「むらさきの物がたりなるとはやうかはりたれど」は、『源氏物語』「真木柱」巻で、父への別れの歌を泣く泣く柱に書き記して去っていった鬚黒の愛娘の話を思い浮かべての表現である。「真木柱」巻中の歌を左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 今はとて宿かれぬとも馴れ来つる真木の柱はわれを忘るな
- B 真木柱太き心はありしかどこのわが心しづめかねつも
- C なほ頼むときはの森の真木柱忘れな果てそ朽ちはしぬとも
- D 真木柱つくるたくみが今日ぞまづ手斧の音をたてはじめつる
- E とはるべきそのあらましに真木の戸をたのめぬ夜半もささで明けぬる

## 〔問五〕

傍線(6)「移り来て住みたらしましかば」の後に補うとしたらどのような語句が適當か。もつとも適當なものを左の中から選び、符号で答えなさい。

- A 人目もはづかしうおほえざらまし
- B 後のわざをもはばからずせまし
- C かの人もいとくおこたらまし
- D この音をいかが聞かまし
- E いかによれしからまし

〔問六〕 次の文ア～オについて、本文の内容と合致しているものに対してはA、合致していないものに対してはBの符号で答えなさい。

- ア 筆者は幼い娘に事実を伝えようとこの文章を書き綴った。
- イ 筆者の夫は一年以上の闘病生活もむなしく亡くなった。
- ウ 筆者は粟田山に近いところから錦小路の館に引越した。
- エ 筆者は夫を出家の姿にしてあげてからひつぎに納めた。
- オ 筆者は亡き夫の忘れ形見となる男の子を無事授かった。